

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	上智大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	心理学研究者の統合的養成プログラム		
主たる研究科・専攻名	総合人間科学研究科心理学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 黒川 由紀子		

[教育プログラムの概要]

キリスト教ヒューマニズムを基底とし、真実と価値を追求する共同体として1913年に設立された上智大学は、1966年4月に大学院文学研究科教育学専攻心理学コース修士課程・博士課程を開設して心理学の実践家と研究者の養成をスタートさせた。そして、2005年4月、文学研究科から分離独立する形で総合人間科学研究科を新設し、大学全体としての教育理念の実現、すなわち、一人ひとりの人間を大切にす精神、**人間の尊厳（ヒューマン・ディグニティ）**を重視する精神を育み、全世界の平和に貢献しうる学問研究や教育を行う人材の養成をめざすこととなった。

総合人間科学研究科心理学専攻は、同じ研究科に属する教育学専攻、社会学専攻、社会福祉学専攻とともに、1) **科学の知**、2) **臨床の知**、3) **政策・運営の知**の創造を教育理念とし、**行動し実践する研究者**を養成しようとするものである。

今回、申請するプログラムは、上記の理念や教育目標の実現を加速化させるものと位置づけられ、次の特徴をもつものとする。

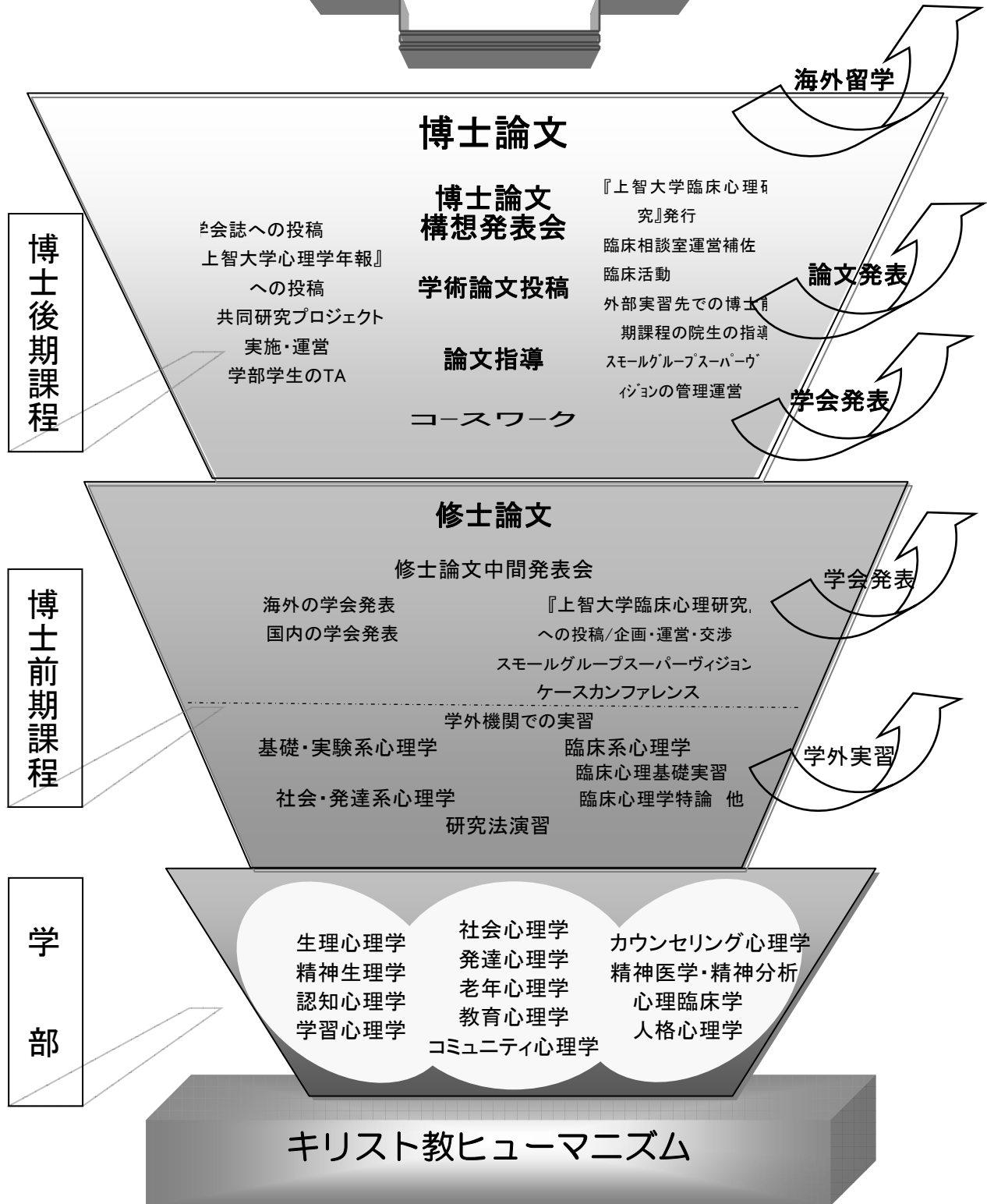
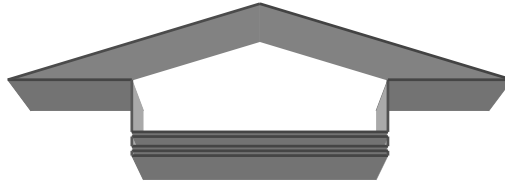
①学部からの**一貫した教育**：内部の大学院進学率は、博士前期課程では4年次在学者の約30%と抜群に高く、学部1年次から専門が分かれている本学の特徴を活かして、実質的に1年から大学院博士前期課程までの6年間ないし博士後期課程までの9年間の一貫教育として位置づけ、学部での基礎的トレーニングを踏まえて、大学院での**統合的教育**を行う。

②**基礎と臨床**の両面からの教育：心理学の基礎領域と臨床領域を車の両輪として、博士前期課程においては、**基礎・実験系心理学**、**社会・発達系心理学**、**臨床系心理学**のそれぞれにかかわる共通科目の履修と、それぞれに特化した科目群の履修を通し、基礎と臨床の両面からの指導を行う。

③**臨床的視点**をもつ研究者、**研究者の視点**をもつ実践家の養成：今日、私たちを取り巻く社会的な問題の多くは、研究に根ざした問題解決の追究と、実践的なニーズの把握、支援的アプローチの模索を必要としている。博士後期課程においては、それぞれの専門のテーマの追究とともに、**対人支援**をテーマとした共同研究プロジェクトの実施により、**チームアプローチ**を通して、行動できる心理学者の養成を目指す。

履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

人間の尊厳 (Human Dignity) の実現



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、我が国の臨床心理士教育は、2年間の技術教育に主眼が置かれているところに問題があり、これに対処するためのヒューマニズムに根ざした基礎的な心理学と臨床心理教育を連携して進めるという理念と目的は評価できる。また、学部教育との6年一貫制を重視した統合的な教育、基礎と臨床の両面からの教育は本研究科の特徴を活かした体系的な教育課程として評価できるが、自己点検・評価体制や情報提供体制の整備・実施については、計画の早期の実現が期待される。

教育プログラムについては、これらの基盤の下、大学院生と教員の対人支援をテーマとした共同研究プロジェクトの実施や、海外研究者の招聘による大学院生主体のシンポジウムの開催などが提案されており、今後の展開が期待されるが、「ヒューマニズム」の育成の位置付けを教育プログラム上、更に明確化するなど、実現に向けて計画の更なる検討と具体化が必要である。